

教員養成系大学生に対するパラスポーツの普及のための 予備的研究

～パラスポーツの参加のきっかけ及びその関わりによる変化の分析～

谷林 徹平 (信州大学)

1. 目的

本研究の目的は、教員養成系の大学生を対象として、1) 学生のパラスポーツの参加及びきっかけの状況、2) 障がい者とパラスポーツに関する知識及び関心の関連を明らかにし、教員養成機関の学生を対象としたパラスポーツ普及のための示唆を得ることである。

2. 研究方法

2024 年の 12 月に、地方国立大学の教育学部で、保健体育教員の免許取得を希望する 1-4 年生の学生を対象として、Google フォームを用いたオンラインアンケート調査を行った。アンケートでは、対象者の属性(2 項目)、障がい者・パラスポーツとの関わり(経験(パラスポーツに関わったきっかけ等)(9 項目)、障がい・パラスポーツに関する知識(障がいの分類、障がい者マーク、パラスポーツの定義)(3 項目)、障がい及びパラスポーツに対する関心(7 項目)の計 21 項目について回答を得た。障がいに関する知識では、1 問 1 点で計 7 点満点、パラスポーツの知識では 1 問 1 点、計 3 点満点とした。

3. 結果と考察

1) データ分析の対象

男子 25 名、女子 15 名、その他 1 名の計 41 名であった(回収率 44.6%)。

2) 学生のパラスポーツの参加及びそのきっかけ

パラスポーツの経験者は 70.7%であった。授業で経験した人が最も多く、53.7%であった。その中でも、特に、保健体育の授業に関わったという人が最も多く、68.3%であった。パラスポーツを知った機会で見ると、パラスポーツ経験者の中では学校で知った人が最も多く 75.9%であった。パラスポーツについて知ったり、関わったりする主なきっかけが学校であり、特に、保健体育の授業でその機会が多く

見られることが認められた。

3) 障がい者とパラスポーツに関する知識及び関心の関連

障がいに関する知識において、合計点の平均は、7 点満点中、パラスポーツ経験者で 4.2 点、未経験者で 3.6 点であった。パラスポーツの知識について 3 点満点中、全問正解した学生は、パラスポーツ経験者が 72.4%、未経験者が 41.7%であり、統計的な有意差は認められなかったものの、経験者の方が高い傾向が認められた。障がい者への支援に関心があると答えた学生は、パラスポーツ経験者で 48.3%、未経験者で 50.0%であり、有意な差は見られなかった。

4. 結論

教員養成系大学の学生の 7 割以上が、パラスポーツの経験を有し、その主なきっかけが学校での保健体育の授業であることが明らかになった。パラスポーツ経験者は未経験者に比べて、障がい及びパラスポーツに関する知識が高い傾向が認められたものの、障がい者への支援に対する関心には有意な差が認められなかった。今後は、特に保健体育教育に関わる学生に対して、学校教育を通したパラスポーツの機会提供の重要性の理解、さらに障がい者及びその支援への関心を高めていけるような工夫の必要性を指導していく必要がある。

4. 主な参考文献

- 1) 中村真博, パラスポーツへの意識に影響を及ぼす要因に関する研究, 日本財団パラリンピックサポートセンターパラリンピック研究会紀要 16 17-32 2021 年
- 2) 塩田琴美, 障害者の接触経験と障がい者スポーツ参加意欲・態度との関係性, 日本保健科学学会誌 18(2) 59-67 2015 年